

バルカン諸國の歴史産業交通の概況 (二)

H T 生

ブルガリアの歴史産業交通の概況

前號に引續いて今度はブルガリアの歴史と最近に於ける産業と交通狀況を觀察することとするが、先づこの國の地理的狀態を試みに地圖に依て見れば判明する如く、ブルガリアは黒海に面して、バルカン半島の約半分を占めてゐる。

この半島の名によつて起る所謂バルカン山脈はこの國の中央を東西に走つてゐる。北は大部分ダニユープの流を境として、前記したルーマニアに接して、西はユーゴースラヴニアの舊セルビア地方の山地に劃されてゐる。更に南はロドープの高原を越えてギリシアに對して居り、東南からは土耳其領東スレーズが入り込んでゐる。元來バルカン半島は地理的狀勢から古來諸民族の往來は盛んでありたために歐

亞を繋ぐ橋梁と云はれて居るが、ブルガリアは正にこの歐亞連絡の要路に當つて居るのである。このブルガリア國を大略歴史的に見ると、一體ブルガリア人は元々好戰的な遊牧民であつて中世紀に於ては三度獨立の王朝を建設して國を興してゐる、即ち大ブルガリア帝國を築き上げた光輝ある歴史を持つてゐる。彼のボリス王がこのブルガリア族を率いて殆んどバルカンの大部を併合して、其の勢力が東羅馬帝國を脅威させたのは遠く九世紀の頃であつたが、十四世紀に至つて、ステファーン・ブーシヤン王はブルガリアに代つて覇權を獲得して、バルカン半島の大部を従へたのであつた。然るに千三百八十九年にセルビア、ブルガリア、ボスニア、クロアチアの諸族がセルビア王ザラールを盟主と

してオットマントルコ、前號参照が小亞細亞の地から侵入するのと戦つたが、弦月旗は遂にバルカン全土を風靡してブルガリアは征服されたのである。斯くて土耳其治下のブルガリアは其後全く屈して伸びることが出来なで、二十世紀の初頭に至るまでは終始一貫して土耳其の支配を受けたのである。かくの如き歴史的事情にあるブルガリア民族は特殊の二重性を持つやうになつたのである。即ちブルガリア人は人種的にも宗教的にも言語的にも殆んどスラヴ系統に同化されて、彼等固有の國語さへも失つて居るが、それにも拘らず彼等はその歴史の起源を東洋に有すること忘れずに居る。この現象は曩の大戦後特に著しく自分からバルカンの日本人と稱して強調してゐるのであつた。

ブルガリアの總面積は三十九萬八千方哩あつて、そのうち三五・〇％は耕作地、一二・六％は牧場、三・五％は森林となつてゐたが、未開地は三〇・五％である。耕作地のうち穀物は九千九百平方哩で全面積の二四・四％を占めてゐる。更にこれを分類すると、四八・〇％は小麦で二七・〇％

は玉蜀黍である。これを見ても判明するやうにブルガリアは小農から成立する農業國である。而してその國民の八〇％が農業に依存して僅かに一〇％が鑛工業に携はつて居るのであるから、従つて農業者の利益關係が政府の政策を決する重要な役割となるのである。而してブルガリアの生活状態は單純であつて、殆んど完全に近い程自作農であるから、自己の土地を忠實に耕作し自から稼いでゐる。牧場は大抵村の共同所有に屬してゐるが薪炭を取る山林も共有のものが多く、従つて原始的共產社會の面影を留めてゐる。従つてその經濟状態の如きも未だ資本主義的段階に達せずして、貧富の懸隔も少ないのである。ブルガリアの産業は何んと云つても農産品が重なるものであつて、即ち小麦・玉蜀黍・烟草・茶・葡萄等を産し、又バルカン山脈の特産として名高い薇醬油を産する。また小農の多い關係上養蠶も行はれ生糸を産出するが、兎も角穀物・烟草・棉花・種油・バラ油が主たる産物で、輸出國としては烟草が第一位を占めて總輸出の約四〇％に當つてゐる。穀物の輸

出は曩の大戦の前では總輸出高の約六〇%に達してゐたが最近では約二〇%に減少してゐる。更にブルガリアの工業方面を見ると、この國では小工業を營む工場は約千二百を數へるが、總て國內消費の生産に従事する小規模の輕工業のみである。鑛業に至つては地下資源が頗る貧弱のために何等取りたてゝ云ふべきものがないが、褐炭と石炭が多少ある位である。

この國の經濟狀態は多少他國とはその趣きを異にして廣汎なる國家統制に依つて行はれて居る有様である。即ち輸入貿易は凡て統制せられて、輸出禁止品も尠くないが、銀行預金の如きはその四分の三は國立銀行の所有に屬して、その大部分は農村の組合と政府に貸付られてゐる。農産物の價格は時に必要に應じて公定せられ、穀物局で小麦ライ麥等を統制してこれを外國に輸出する組織である。又一方では農業銀行が烟草と繭を買入れて銀行からこれを輸出する方法も實行されてゐるのであつて、凡ての輸入品にも割當制度が行はれ國立銀行の輸入許可證に依つてなされ

るのである。而して外國の貿易の最大顧客は獨逸であるが、ブルガリアは獨逸から軍需品及び農具を輸入して、農産物を獨逸に輸出してゐるが、こゝに兩國間には清算協定をなして爲替は公定水準に釘付けられて居る。而して過去數年間はブルガリアの帳尻が貸方になつて居る。今回の歐洲大戰がブルガリアに與へる打撃が相當大であることは、輸出入の半額を對獨逸に依存して居る關係上同國の經濟にとつては影響は頗る甚大であらうと思はれるのである。ブルガリアの交通は巴里・ウイーン・ブタペスト・ベルグラードを経て首都ソフィアを通じて、スタンブールに達する鐵道が通ふつて居る。この鐵道は歐洲に於ても最も重要な鐵道幹線の一つである。即ち東方は土耳其に、北方はルーマニアを経て蘇聯邦に、西南方に於てはユーゴスラヴィア・ギリシアを越えてアドリア海を隔て、伊太利に對して更に歐西交通の要衝として遙かに歐洲の平原まで通ずるといふ全く主要幹線である。こゝにブタペスト・ソフィア・コンスタンチノーブルは直通列車によつて繋がれて、東南

ヨーロッパに於ける諸國は一系の接境地として直接なる政治的・經濟的關係に置かれて居る。この國の道路は首都ソ

ニア附近では相當立派なる路線が敷設されてゐるが、街と街との間にも亦直通路線が出来て居る。一體バルカンの道路は歐洲近代技術道路に依つてその地勢上坦々とした改良された道路が相當に發達して居るが、ブルガリアの如きはこの國の經濟的狀態から見て資源開發道路の如きは殆んど出来て居ない有様である。しいて云ふならば農産物を貨物自動車に依つて輸送する路線は田舎にも建設されてゐるのであつて、この路線は地方民の交通路線であり、亦一方に於てはこの國唯一の農産物の運搬道路である。道路は大體に於て都會地附近は舗裝も施してあつて、道路としては勿論歐米の道路に比較すると問題にならないが、この國の産業經濟狀況から割出して相當なものがある。而し面白いことにはブルガリアの國民は土耳其風の野外氣分を好んで一日の大部分を庭や道路の上で暮して居る。即ち女達ちは路面に縫物編物を持ち出して路面の適當なる場所に集まつて

紡績織機の如きさへ道路で行ひ、又飲食の如きも平氣で通路で行ふ有様である。

而して今次の歐洲大戰とブルガリアとの關係を見ると、千九百四十一年即ち昭和十六年の三月一日にブルガリアは日獨伊の三國同盟に参加して居るが、更にその翌月にはブルガリアはユーゴと國交斷絶してゐる。而して獨逸軍はブルガリアの三國同盟参加が議定書に調印した日、即ち前記三月一日にはブルガリヤに進駐して獨軍は羅勃國境ドナウ河の四ヶ所に架した橋梁を渡つて同國內に進駐して、獨逸の機甲化部隊の先遣隊は灰色にぬられた裝甲車を連ねて、議定書調印後早くも二時間後にはブルガリアの首府ソフィヤに入城して居る。元より獨逸軍のブルガリアへの進駐は同國政府の同意の下に行はれたのであるが、一方空軍も佛占領地帯から空輸されて、約千七百機は當時ブルガリアの二十四ヶ所の飛行場に配置されたのであつた。而して獨逸政府は當時獨軍のブルガリア進駐は東南歐に於ける英國の策謀に對する對抗措置であると發表して、樞軸國は

ギリシヤに於ける英國の勢力を驅逐し、更に當時伊太利に抗戦しつゝあつたギリシヤを攻略し、進んで土耳其方面における英國の策動を封する目的を以て先づブルガリア國を基地としてバルカン及び近東に對する政治及び軍事的攻勢を取らんとしたものである。この時英國は三國同盟に参加して獨逸軍の進駐を許したブルガリアに對して昭和十六年三月五日に國交斷絶の通牒を發したのである、又同國に關係を持つ蘇聯の動向については問題視されたが、當時蘇聯政府は沈黙を守つて居つたが、遂に抗議的意志表示を行つたのである。これが大體ブルガリアの今次歐洲戰に對する同國の態度である。

ユーゴ・スラヴィアの歴史産業交通の概況

次で筆の旅行はユーゴ・スラヴィアの歴史・政治・産業・交通の大略に及ぶが、全體今次の歐洲大戰はこのバルカンの地圖をして餘程變更せしめて居る、恐らくは將來も大いに變更を餘儀なくされるであらう。即ちユーゴ・スラヴィアに見るも、獨軍のブルガリア進駐と前後してユー

ゴ・スラヴィアの形勢は悪化して、セルヴィヤ族の反獨傾向は激化して、當時樞軸側に味方するクロアイト等との衝突は各地に勃發してゐる際、即ち昭和十六年の四月に英國外相イーデンがチル參謀長同伴ベオグラードに乗込んでユーゴ政府首脳部と會談その抱込工作を行つたので、局面は著しく急迫して在留獨伊人は續々と本國に引揚げ、而もシモウイツ首相が公然親英米、排獨の氣勢を示し、又蘇聯が獨伊を牽制すべく同國と當時不可侵條約をするに至つて、獨伊とユーゴとの關係は一觸即發の状態を呈するに至つたのであつた。果然ヒツトラ獨總督は昭和十六年の四月六日に東南歐洲派遣軍並に一般國民に對して英國の攪亂工作を防止して獨逸に對する脅威を除去するため、ギリシヤ及びユーゴ・スラヴィヤへの進撃の止むなきに至つたと聲明して、その決意を表明し同時に獨逸政府はユ希兩政府に對して、兩國が英國と協力して反獨戰線結成に暗躍せる事實を指摘し、以て進撃やむを得ずとの聲明と通牒とを手交すると共に、同日リスト將軍麾下の東南戰線派遣

軍に對してユ希進撃の命令を發したのであつた。この命令を受けたリスト將軍麾下の獨逸軍はギリシヤ、ユーゴに直ちに進入又獨逸空軍は早くもユーゴの首都ベオグラードを始め各地の重要軍事施設を爆撃して多大の効果を收め、特にユーゴの首府ベオグラードに對しては中央停車場、ドナウ河橋梁、飛行場等に猛爆を敢行して各所に火災を生ぜしめ、又伊太利政府も獨逸と同日對ユーゴ・スラヴィヤに攻撃開始を發表して、ユーゴ政府に對して進撃開始理由を説明せる通告を送つたが、他面英政府は同日ユーゴ政府に對して無制限援助を與ふる旨通牒した又米國政府もユーゴに武器供給援助を聲明したのであつた。

斯くて獨伊の兩軍は昭和十六年四月六日に獨軍はトラキヤ及びマセドニアの兩方面からギリシヤに進入すると共にブルガリヤ、ルーマニア兩國境から一齊にユーゴに進撃したのであつた。而してユーゴ軍と英希聯合軍との聯絡を遮斷して、ユーゴ進撃の獨軍は早くも同年四月八日にはユーゴ國中南部の最重要地であるスコプリエを占領

の進撃は第し、更にクロアチヤの首府ザグレブを占領して、茲に獨伊一期を終つたが、其後ユーゴ側は各所で敗退して遂に四月十七日に至つて無條件降服を申出たので、翌十八日には全線に互つて武器を捨て、ユーゴ政府は亡命したのであつた。茲に於て彼のヴェルサイユ體制の寵兒であつた、ユーゴ・スラヴィヤは名實共に解消するに至つたのである。借て今次の歐洲戦争でかゝる運命を辿つたユーゴ・スラヴィヤは元來中世の頃から南スラヴ族が移住して以來、互に割據分立してゐたのであるが、曩の世界大戰後に於て戰前のセルビア・モンテネグロ兩王國とオーストリア・ハンガリーの一部とが合併して約千四百萬の人口を有する一國を形成して、セルブ・クロアト・スロヴェニア王國と名乗つたが、其の後千九百二十九年十月三日を以つてユーゴ・スラヴィア王國と正式に國號を改めたのである。而してこの國は九萬五千六百平方哩の國土を有し北東は舊オーストリア・ハンガリー・ルーマニア・ブルガリアに接して南はギリシヤ及びアルバニアと境を接して

我實に七ヶ國に隣接包圍されて居つた。その面積は丁度が本州に九州を加へたよりも稍や大きく、四國を加へたよりも小さいのである。一體この國の國民は七種類に分れて、その内代表的の種族はセルブ族、クロアチア族、スロヴェニア族であるが、前の大戦の結果民族主義的統一の下に一國となつてカラ・ゲオルギー家を戴いて王國となつたのであり、國民の大部分を占めるのは農民であつて過半数は無學の民である。彼等は土地に愛着心を有して、部族的な團結力は強く、郷土愛的精神はやがて彼等の民謡となつて表はれ、これが南スラヴの特色を示してゐる。

ユーゴ・スラヴィヤの地勢は殆んど高原であつて、僅かに北部を貫流するダニユープの流域が平野を形成し、中部南部はマケドニア地塊と呼べる、古期地層の準平原であり、その中央のコソヴォの高原にはツアラ、プラニナ、コパオニク等の山峰が聳えて、多島海に注ぐヴァルダル河とダニユープ支流のモラヴァ河との分水嶺をなしてゐる。舊セルビア及びマセドニアの北部は高山地帯で、ヴァルダル、

セルナ兩河の間に横たはる地域は人跡も稀なる沙漠の如きものであり、半分は露出したる岩角で被はれて居り、半ばは森林地帯である。またアルプ、山脈の東翼はアドリア海に沿つて南に走り、到るところで屈曲してその前帯は海に沈んで屏風のやうな特殊海岸地形をなしてゐる。またユーゴ・スラヴィアの南端にある黒山と云はるゝ意味のモンテネグロは、東半は森林地帯で西半は黒色の石灰岩峰で高峰となり、又溪谷と變じて湖水盆地等が交はつて奇觀絶景を現はしてゐる。又北西に溯つて、ヘルツェゴヴィナ、ボスニア地方は高原地帯であり夫れに圓味の山々が斜面して森林に覆はれて、その中間には甜菜、穀物、葡萄等の耕作及び豚の飼育を盛んになして居る。ダニユープ河はこの北部一帯を濕ぼして、この地方は所謂ハンガリー平原の南方の一部をなしてゐる。氣候は大體において地中海型であつて夏期は南東風の濕風を受け、冬期は乾燥したる寒風に襲はれて、時には突風に見舞はれる恐れがある。全體バルカン半島は到るところに山と丘とが斷續して、總面積の約五分

の四は山地であり西部地方は地勢高度であつて複雑化してゐるのである。

併せてユーゴ・スラヴィヤの産業状態と貿易等所謂經濟方面について見ると、この國の人口の約四分の三は農業及び林業に従事してゐるが、農業に於ては玉蜀黍と小麦が二大作物である。千九百三十六年同三十七年の統計に依る玉蜀黍の生産高は五百十八萬噸、五百三十三萬噸となつてゐるが、同三十八年には四百四十萬噸に増産してゐる。輸出は玉蜀黍が主となつてゐるが大麻も約五萬噸の輸出をなして蘇聯に次いで世界の第二位を占めて居る。その他甜菜糖は國內の消費を充すに十分であり、煙草は僅かながら輸出されて居る。油性種子植物並に棉花は主要輸入品である。また果實と乾葡萄及び家禽、玉子等も相當の重要生産物であると共にこの國の輸出品である。家畜に至つては豚及び牛類も主要生産の部類に屬して總輸出高の約四分の一を占めてゐる。更に木材も主要輸出品の一つであるが、木材及び木材パルプはこれまで伊太利、英國、獨逸其

他の諸國に年約五十萬噸を輸出されて居つた有様である。

鑛物方面はその資源は一般には比較的豊富であるとの觀察であるが、未だ十分確實なる調査は出來て居らないのである。併せて銅、錫、鉛、鐵、クロム、ポークサイト、金、銀、アンチモニー等が地下に埋藏されて居るのは鑛床の發見に依つて明かである。現にボル、トレブカの兩鑛山及び其他の各鑛山には新設備をなしてゐる。而して總生産額は一ヶ年僅かに十億ダイナール四百萬磅に過ぎないが、今これを千九百三十七年度に見ると。ユーゴ・スラヴィアの主要鑛産物は褐炭四、五七五千噸、鐵鋼六一八千噸、石炭四二八千噸、ポークサイト三五八千噸、亞鉛三九千噸、鉛、七一十噸となつてゐる。そのうち最も價値あるは銅にして、その大部分はこれまで米國及びベルギー其他に輸出されてゐる。金の産出高は現在一年間に二千五百萬疋と云はれてゐる。更にユーゴ・スラヴィアの工業方面を觀察すると。この國も亦バルカン全諸國と同様に農業的工業たる製粉、砂糖、アルコール、ジャム、チョコレート、植物

油の精製等が重要部門である。

更にこの國の纖維工業は最近數年間において相當發展を示して、紡績工場も亦發展をなしてゐる。また北セルビア地方では大麻工業及び輸入棉を原料とする纖維工業も行はれてゐるが、最近ではボスニアの國立製鋼所の設立に依つて、金屬工業もかなりの發展を見るに至り、又過燐酸鹽其他肥料、石鹼、蠟燭等の化學工業とセメント工業も發達の途上にある。要するにこれまでのユーゴ・スラヴィアの産業は農業産業であるが、故にその貿易の如きも原料食品を工業諸國に輸出して以て製造品を輸入してゐる有様である。茲にその貿易額を統計的に見ると。

	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
輸 入	三・六	四・〇	五・一	五・〇
輸 出	四・〇	四・四	六・三	五・〇

但し十億デナールを單位で一九三八年當時は一デナール爲替相場は二六〇乃至二七〇磅である。

而して貿易の相手國は獨逸が最も多くして輸出入總額の

四割を占めて、次は英國伊太利と云ふ順序になつて居り、輸入品側から見れば、電氣器具、建築用材、鐵及び鐵鋼製品、綿製品等である。以てユーゴ・スラヴィアの産業狀態の大略を窺はれるのである。

此の國の首都ベルグラードはダニューブ河とサウ河との合流點のところにあつて、サウ河の平野を眸の下に集める高臺の上であり、實に晴天の時などは所謂千里の眺を壇にすることが出来るから、古くより軍事的には重要な意義をもつところとしてバルカンの樞地と云はれてゐる。然しその人口は約五萬位で市街の體形は一國の首府としては甚だしく近代様式を缺いて居り、全市の建物の如きは東京の銀座通りに比すべき一番賑はしきグネス・ミハイロフ街には二三階の石造建築物のある他は全市は殆んど平家建築である。ベルグラードの大學を始め各種の教育機關もこゝにあり、亦諸官廳もあるが全く一國の政治經濟文化の中心地とは云へ誠に貧弱である。道路の如きもグネス・ミハイロフ街其他二三ヶ所には石材にて鋪裝されてゐるか比較的に

狹隘であり、他は鋪裝道路は見當らない有様である。勿論ベルグラードを基地として地方都市を結ぶ道路は四五ヶ線通じてゐるか、これも漸く自動車の全速力を以て疾走することは困難の様様である。農民は地方物産を運搬するには貨物自動車を利用するも大抵は車馬を以てして居るやうである。併し乍らユーゴ・スラヴィヤはバルカン半島の人口密度に於て比較せば、一平方籽に對する人口密度の割合はルーマニアの六六・六に對して六二・二と第二位であり、亦その貨物自動車所有數に於てもギリシヤの百平方籽當り一〇・八を最高としてユーゴ・スラヴィヤは六・〇で比較にはならないが、それでも第三位の所有數である。鐵道の布設籽數も百平方籽當りで、バルカン諸國中ユーゴ・スラヴィヤはルーマニアと同様三・八の割合を以て第一位である。勿論これ等の數字は國土の關係にも影響するが、兎に角かやうの状態であるからユーゴ・スラヴィヤの道路交通は一流國に比較すると未だ整備をせなければならぬ狀況にある。全體バルカンの交通網はその地形たる

や山脈地帯が障害となつてゐるのに加へて、嘗て土耳其の惡政及び政治的不安が絶へずバルカン諸國の交通政策をして遅れせしめたのである。殊に道路政策に於て然りであつたのである。併し乍ら他面には橋梁的たる位置のお蔭を以て歐亞を繋ぐ通路が發達して居るのがバルカンの特色である。従つてバルカンの諸河川の河谷が主要なる通路となり、ドウナ河の本流は勿論、幾多の支流とエーゲ海斜面の河流を結ぶ通路は最も主要となつてゐる。

更ればモラヴァ河とヴァルダ河の溪谷を結んで利用したドウナ河本流沿岸のユーゴの首都ベルグラードと、エーケ海岸のサラニカを結ぶ通路と、同じくモラヴァ河及びリツツア河との河谷の一部を利用してユーゴ・スラヴィアの首府ベルグラードからモラヴァ河上流のニシ・ソフィヤを経てアドリアーノブルからイスタンブルに達する通路は古來から重要な通路であつて、現在でもこゝに鐵道が通じてゐる。就中ユーゴ首都ベルクラードからイスタンブルに至る線路は中央ヨーロッパの幹線鐵道と連絡

して、獨逸が大戦前に計畫した彼の有名な三B鐵道の一部となつてゐる。而してユーゴ・スラヴィアの鐵道延長は

ルーマニアの一萬千料、ブルガリヤの三千二百料、ギリシヤの二千七百料に比較して九千三百料を有してゐるが、道路路線は主要幹線道路に於て約二萬二千料と云はれてゐる。而して産業開發と道路との關係はその目標に於て未だ道路の一部は最も利用さるゝが全面的に見てまた、道路政策上の缺陷があると思はれるのである。更にこの國の風俗を見ると、女は帽子を全然被らず風呂敷のやうな華美な布を以て頭から被つて唯一の裝飾としてゐるが、元々バルカン・スラーヴ族の風俗が南露スラーヴ風を基調として色彩的な大柄模様の多彩絢爛が最も好まれるのである。ユーゴでも地方的にはその環境に應じて伊太利、オーストリア、或はハンガリーと夫々化してゐるやうなところもあるが、特にモンテネグロの男はサーカスの馬追ひのやうな青赤の原色を使用した華美な奇装を好んでする。亦野外でも道路でも平凡琴またはヴァイオリン等を用ひて行はれる

所謂農民踊りには、全く南スラーヴ的なる情緒が溢れてゐる。

元來このユーゴ・スラヴィアと云ふ國は經濟的に見てもこれまで獨逸の二國が最大の顧客であつて、現に千九百三十八年の輸出でも二割一分を獨逸に、一割四分をオーストリアにて占めてゐる位であり、また輸入貿易に於てもこの兩國の占める割合は夫々三割四分強といふ數字を示して、それが獨逸合併後に於ても輸出入の合計は四割以上に達する巨額であるから、従つて親獨逸傾向の濃厚であつたのであるが、歐洲戦と同時にユーゴ・スラヴィアもルーマニアと同じく中立維持に勉めたのであつたが、國內の事情は豫期と相反して錯雜の結果遂に前記したやうに獨逸軍の進撃によつて政府の亡命、獨逸の占領下に置かれたことは一抹の悲哀を留めると共に爲政者達の最極度の無能が然らしめたのである。戦後におけるバルカンの地位は他山の石として觀ず、必ずや今後展開は世界新秩序の確立に關聯して注目するところとなるであらう。